

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

東総・海と台地活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県

銚子市

旭市

3 地域再生計画の区域

銚子市及び旭市の全域並びに千葉県香取郡東庄町の区域の一部（南部地域）

4 地域再生計画の目標

1) 地域概要

本地域は千葉県の最東端に位置し、北は利根川を隔てて茨城県に対し、南東は太平洋を望み西は香取郡の北総台地に接している。気候は比較的温暖で、年間平均気温は15℃前後である。

農業は県内随一の生産額を誇り、水産業においては銚子漁港を擁していることから、首都圏の食料生産供給基地として役割が大きい地域である。また、銚子市は古くから醸造業が盛んであり、『醤油のまち』としても有名である。

さらに、風光明媚な自然や歴史的文化的遺産などに恵まれ、一年を通して多くの観光客が訪れている。

しかし、本地域の基幹道路はカーブも多く、渋滞の発生も頻繁であるため、地元産農産物の出荷・輸送に予想以上の時間がかかってしまったり、乗用車を利用して首都圏等から当地を訪れる際に移動がスムーズに行かない場合も多い。

さらに、通勤通学、救急車や病院の利用、消火活動など地域の生活環境に渋滞による影響が生じており、交通事情の改善に期待は大きい。

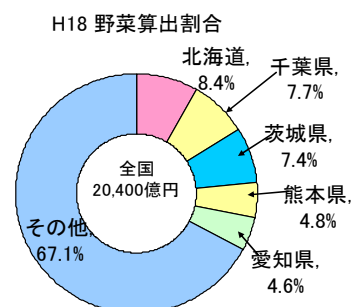
2) 地域産業の核となる農業の現状

千葉県は、全国でも上位に位置し、農業産出額は約 4,014 億円（平成 18 年）で、北海道、鹿児島県に次いで第 3 位である。なかでも野菜は、北海道に次いで第 2 位であり、産出額は約 1,570 億円にもものぼる。

千葉県の農業産出額と順位（単位：億円、%）

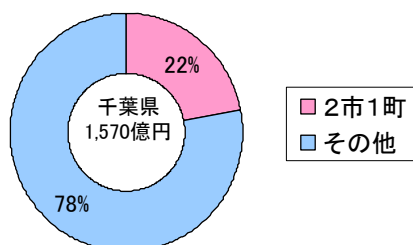
項目	全体	米	野菜	畜産計
産出額	4,014	706	1,570	1,003
構成比	100.0	17.6	39.1	25.0
全国順位	3	9	2	5

※ 農林水産省大臣官房統計部『平成 18 年農業産出額（都道府県・市町村別）』より

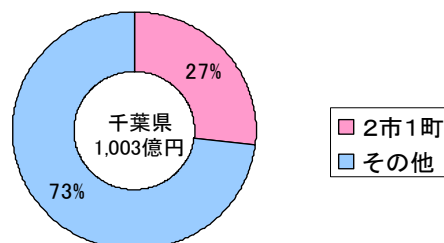


このようななかで、本地域の農業は温暖な気候や肥沃な大地に恵まれて、千葉県農業産出額の約 18% を占める県内有数の産地を形成している。特に、野菜と畜産が盛んで、それぞれの県内シェアは約 22% と約 27% である。

H18 野菜算出額(県内)

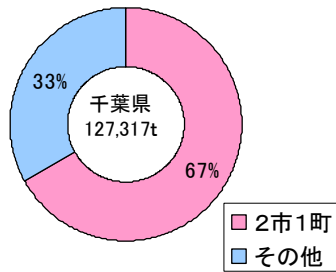


H18 畜産算出額(県内)

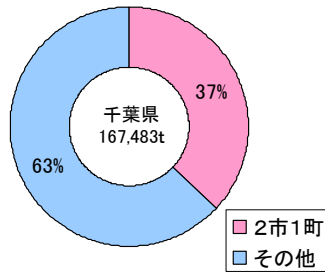


主な野菜はキャベツ、だいこん、メロン、かぶであり、キャベツは県内収穫量の約 67%、だいこんは約 37%、メロンは約 68%、かぶは約 18% を占めている。特にキャベツについては『灯台印』としてブランド化が図られている。

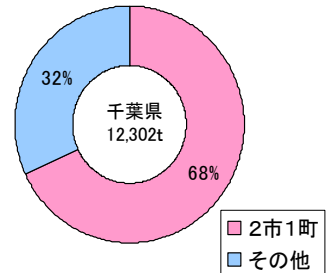
H17 キャベツ収穫量(県内)



H17 だいこん収穫量(県内)



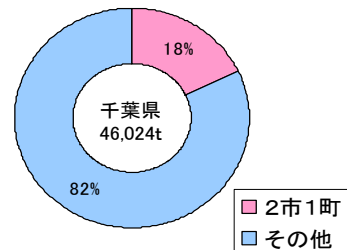
H17 メロン収穫量(県内)



H17 かぶ収穫量(県内)



一面のキャベツ畑



最近では、BSE や産地偽造表示、鳥インフルエンザなどで、食の安全・安心に対する消費者の信頼が揺らいでおり、『食』と『農』に関する『安全』と『信頼』が求められている。

これらの消費者からの期待に応えるために、千葉県では、『ちばエコ農業産地指定*注1』、『ちばエコ農産物認証*注2』を併せて行い、環境保全、栽培保証、『ちばエコ農産物*注3』の安定供給などを一体的に推進するほか、JAS 法に定める原産地表示制度の徹底やトレーサビリティシステム*注4の推進、農産物流通の農薬残留チェック体制の整備により食の安全・安心体制の確立を図っている。

当地域においても、ちばエコ農業等に積極的に取り組んでおり、平成19年11月21日時点のエコ農産物栽培面積はキャベツ、だいこんなど約921haと、安全・安心な農産物の生産を進めている。

同時に、新鮮な農産物を安定して供給するために、当地域の中央部、銚子市新町地先に位置する大型予冷貯蔵施設（名称：グリーンホーム銚子）を野菜出発基地とした供給体制を整えている。生産者の連携のもと野菜の安定した生産を進めるとともに、グリーンホームでは収穫された野菜を一元的に集

め予冷することにより、鮮度の保持に努めている。また、産地のほ場から主要な道路に至る小規模な農道も、舗装工事などの農道整備を行い、輸送の際の荷傷み防止を図っている。

しかしながら、本地域の中央部から西部にかけての台地では、河川や谷津田が幾重にも入りこんでいる。このため、ほ場からグリーンホームへの輸送は大きく迂回せざるを得ない状況にあり、効率的輸送の障害となっている。また、グリーンホームから京浜・東北方面への輸送も、カーブの多い県道や駐停車車両による渋滞が日常的に発生している一般国道を利用しており、これらも輸送の効率化を妨げている。

平成18年度出荷実績

(グリーンホーム銚子扱い分、JAちばみどりから聞き取り)

品 目	出荷量
キャベツ	約37千t
だいこん	約19千t

注1) ちばエコ農業産地指定・・・減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、次の認証基準の要件を満たす産地を県が指定する制度

○「ちばエコ農業産地」認証基準

要 件	内 容
構 成	環境にやさしい農業集落指定
面 積	5ha以上の栽培面積
統一栽培暦導入	農薬や化学肥料が2分の1以上低減される栽培暦を統一的に導入
栽培情報公開	栽培に関する履歴の記帳と情報公開
産地管理体制整備	生産・出荷・販売及び品質の管理体制の整備

注2) ちばエコ農産物認証・・・指定産地などで生産された、下記の認証基準の要件を満たす農産物を県が認証する制度

○「ちばエコ農産物」認証基準

要 件	内 容
栽 培	県が定める標準的な栽培基準に比べて農薬や化学肥料を 2 分の 1 以上低減
栽培情報公開	栽培に関する履歴の記帳と情報公開
使用済みプラスチックの適正処理	生産に使用した塩ビ・ポリフィルムなどの適正処理
生産管理体制整備	生産・出荷・販売及び品質の管理体制の整備

注3) ちばエコ農産物・・・ちばエコ農業 *注5により生産された農産物

注4) トレーサビリティシステム・・・食品の生産、加工、流通などの各段階で原材料の仕入れ先や食品の製造元、販売先などを記録・管理し、食品のたどってきたルートと情報を把握できる仕組み

注5) ちばエコ農業・・・通常と比べて農薬や化学肥料をできるだけ減らした栽培を行う「ちばエコ農業産地」を指定し、これらの産地などで栽培された農産物について「ちばエコ農産物」として千葉県独自の認証を行い、安心・安全な農産物を消費者に供給する事業

3) 地域資源の現状

本地域は、東端に日本で一番早く（富士山頂、離島を除く）初日の出を拝める犬吠埼や「日本の渚・百選」にも選ばれた君ヶ浜などの美しい海岸、海洋性レクリエーション拠点が充実し、年間約250万人の観光客が訪れる。

全国屈指の水揚げ量を誇る銚子漁港周辺では、漁港ならではの景観を楽しむ「銚子ポートタワー」や新鮮な海の幸が入手できる「ウオッセ21」が位置し、消費者が漁業に親しめる場となっている。また、地球の丸さを実感できる「地球の丸く見える丘展望館」や東洋のドーバーと言われる屏風ヶ浦が眺望できる「飯岡刑部岬展望館」、イルカウォッチングが楽しめる「銚子マリーナ」など『海』をテーマにした多くの施設が集中している。

首都圏からのアクセスは、東関東自動車道から東総有料道路を經由し一般国道126号で銚子方面に向かうルートか、東関東自動車道から一般国道356号を経て銚子方面へ向かうルートが一般的である。しかし、本地域が半島性であるため、これらの基幹道路はいずれも地域の縁端に位置し、また、

市街地では生活道路でもあるため、交通渋滞が日常的となっている。加えて曲折部が多いことから、観光拠点へのアクセスに時間がかかり、観光客の求める『快適な旅行』のネックとなっている。



観光資源（犬吠埼灯台）



一般国道126号の混雑状況

4) 農村生活環境の現状

当地域の中心である銚子市では、救急病院が東側（『海』）に位置するため、中央部から西側にかけての地域では救急患者の搬送に時間を要することとなる。また、地域医療の中核となる病院は隣接する旭市にあり、当地域から本病院を利用する際には一般国道を自動車で移動するケースがほとんどであり、交通事情の改善を求める声は大きい。さらに、近年の消防自動車の大型化に伴い、狭小な道路が多数を占める地域では効果的な消火活動が懸念される状況にある。

本地域の通勤通学者は、2000年国勢調査によると、地元市街地や茨城県に通う人が多く、そのうちの約7割が自家用車を利用している現状にある。しかし、駐停車車両の影響による一般国道の渋滞などで移動にかなりの時間を必要とする場合もあって、通勤通学者は不便さを感じている。

5) 地域再生への目標

- ① 品質の良い農産物の生産に努めるとともに、新たな道路整備によりグリーンホームを核とした地域農産物流通の効率化を図ることで、農産物の品質の安定化、鮮度保持をさらに進め、消費者の求める新鮮で安全・安心な良質野菜の供給体制を整備する。

これにより、安全で安心な農産物の供給を通じ産地としての競争力が向上するとともに、生産意欲を刺激し、地域農業の振興等地域産業の活性化が図られる。

- ② 農村地域の基幹道路を一体的に整備することにより、市街地（『海』）と農

村地域（『台地』）間の人の流れをスムーズにし、地域の生活環境の向上を図る。

また、日本屈指の水揚げ高を誇る銚子漁港や360°の大パノラマが眺望できる地球の丸く見える丘展望館、飯岡刑部岬展望館など多くの観光資源が集中する東部（『海』）へ、東総有料道路（『台地』）からのアクセス性改善を図ることで、観光を通じた地域産業の活性化に資する。

【数値目標】

- 農畜産物流通の効率化
(総集出荷時間を20%短縮)
- 農村地域から市街地までのアクセス時間の短縮
(計画道路起点から終点までの所要時間38分を17分短縮する)
- 農村地域から幹線道路までのアクセス時間の短縮
(計画道路起点から終点までの所要時間14分を7分短縮する)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

1) 地域の活性化を図る事業

広域営農団地農道整備事業と連携して市道改良事業を一体的に整備・接続し、本地域の道路ネットワークの充実を図る。

また、関連事業を効果的に展開し、産地ほ場から集出荷施設まで及び集出荷施設から消費地への農畜産物流通の効率化を促進する。合わせて農村地域と市街地とのアクセス改善を図ることにより、通勤通学や病院への利便性の向上、緊急車両の通行路の確保など地域の生活環境の向上を図る。さらに、豊富な観光拠点までの新たなアクセス道路とすることで、本地域の活性化に資する。



農産物流通の拠点施設（グリーンホーム）



一部供用を開始した広域農道

5-2 法第五章の特別の措置を適用して行う事業

1) 道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を了している。
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

広域農道 (銚子市、旭市、香取郡東庄町)、
千葉県(土地改良法に基づく実施手続、開始済)
市道 (銚子市・旭市)、銚子市・旭市(認定済)

[事業期間]

広域農道 平成17年度から平成25年度まで
市道(銚子市) 平成17年度から平成23年度まで
市道(旭市) 平成18年度から平成21年度まで

[整備量及び事業費]

広域農道 L=7,580m
市道(銚子市) L=710m
市道(旭市) L=2,430m
・総事業費 4,690,000千円(うち交付金 2,345,200千円)
広域農道 3,696,000千円(うち交付金 1,848,000千円)
市道(銚子市) 520,000千円(うち交付金 260,000千円)
市道(旭市) 474,400千円(うち交付金 237,200千円)

5-3 その他の事業

1) 地方道路交付金事業の活用

国土交通省の地方道路交付金事業を活用した地方道路の整備を進め、地域道路網の充実を図ることで、地域生活環境の向上と当地域へのアクセス性の改善等に資する。

2) 食の安全・安心対策の推進

消費者が求める「食と農」の「安全・安心」への期待に応えるため、ちばエコ農業など人と環境にやさしい農業を展開し、安全・安心な農産物の安定供給を進め、地域農産物の信頼を高める。

3) 東総台地地区広域営農団地農道建設促進協議会の活用

地域の関係者で組織する東総台地地区広域営農団地農道建設促進協議会において、事業の進捗状況や諸問題について情報を共有し、地域の関係機関等が一丸となり円滑な事業推進を図る。

6 計画期間

平成17年度～平成25年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に状況を把握し、関係行政機関等により達成の評価、改善すべき事項の検討等を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし